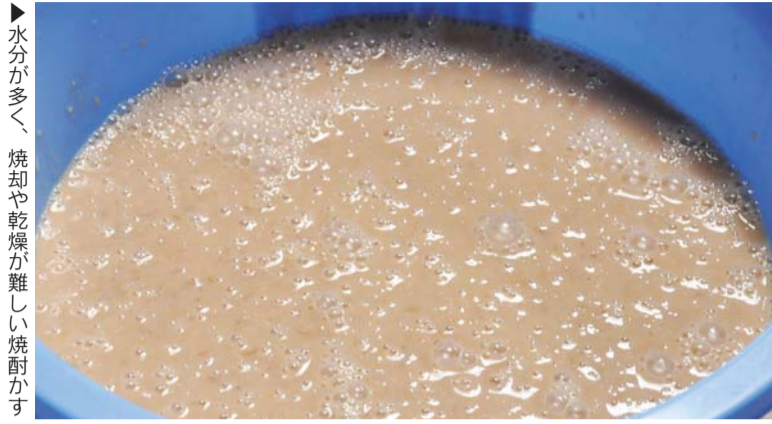


地域経済

新たな挑戦にズームアップ

シリーズ **地産知商**

廃物処理のピンチがチャンスに バイオテック九州の発酵飼料



水分が多く、焼却や乾燥が難しい焼却かす



▲20キロの袋に詰めた製品の飼料



▲焼却かすに穀物などを投入し、かきまぜて水分を減らす



▲液体の焼却かすを乾燥させてフレーク状にした飼料を1トン入りの袋に詰める作業



▲焼却かすから作った堆肥で野菜を育てる営農管理課の職員たち

「処理費用がこれまでと同じでも、地域の農業に還元されるなら大歓迎と喜んでくれる焼却メーカーもある」と同社の犬塚靖人専務は話している。

乳酸発酵飼料製造・販売のバイオテック九州(金山正浩社長、熊本市水前寺6丁目)では04年から焼却かすの有効利用を研究し堆肥化している。06年からは焼却かすを原料にした家畜用の発酵飼料の開発を進め、07年11月から植木工場で飼料の製造を始めた。同工場では提携会社のグッドフーズ物流が焼却メーカーから回収した焼却かすに乾燥粉砕したトウモロコシの芯や米ぬかなどを加え、水分を95%から約50%に減らす。加熱で水分を減らすよりもCO₂の排出が少なく環境にやさしい。さらに混合物を発酵させ、消化しやすく保存性の高い飼料に加工している。工場では一カ月に1000トンの焼却かすを200トンの飼料に加工できる。一年半前からは牛への影響を調べるため畜産農家と連携し、出荷後の肉質のデータ提供を受けている。輸送コストの関係で飼料は九州内の流通に留まっているが、今後は販路を拡大しながら県内農協や有力業者との連携を目指すという。また同社では自社製の堆肥を使い、野菜の無農薬栽培もしている。

ミニバイク利用した自動車運転請負事業開始



バイクやヘルメットはシマウマをイメージしたデザイン。左が杉田貞雄社長

尽天(株)

熊本版 **コロンブスのたまご**
～新規事業への挑戦～(随時掲載)



▲右が使用時のサイズ。折りたたんで防水防泥加工などを施した専用バッグに収納し顧客の車に搭載する



▲会員制のため、顧客から事務所に着電があると同時にPC画面に顧客情報や登録店舗などがアップされる



▲大きめの旅行バッグ程度の大きさになるため、軽自動車でも積み込み可能。写真は1300ccの自動車



▶スタッフが移動で使用するバイクはイタリア製。重さは29kgしかない

尽天(株) (菊池市泗水町、杉田貞雄社長)は10月1日、車を使わずに50ccバイクで顧客先に移動し、移動後は折りたたんで専用のバッグに収納したバイクを顧客の車に搭載して顧客を目的地まで送り届ける運転請負事業を開始した。

事業名は「バイククル」。1人で業務にあたるため、通常の運転代行業に比べ人件費やガソリン代などの維持費が削減でき、料金を通常より安価に設定できる。バイクはイタリア製で、車体重量は29kgと軽量。ハンドルやフレーム部分で折りたたみ、防水防泥加工などを施した専用バッグに収納できる。車に倒して収納してもオイルやガソリンが漏れ出さないよう加工を施している。顧客を送り届けた後は再びバイクを組み立てて熊本市内の待機所に戻るため、熊本市内から約30km圏内を営業エリアとし、利用者は会員登録が必要。料金目安は初乗り1000円、20kmで3000円程度、30kmで4300円程度となっている。